

航空機の都心低空飛行反対 江戸川ニュース

No.4 2016.12.11

航空機の都心低空飛行に反対する
江戸川区民の会

代表 肥後 義弘 (03- -)

事務局 太田 美音 (03-5605-0586)

E-mail ; mine-ota1004@mbr.nifty.com

国内航空機の部品脱落 437 件

2009 年 4 月 ~ 2016 年 10 月で

11 月 22 日、共産党都議団、特別区議員団が国交大臣あて要請書（羽田空港機能強化計画中止、公聴会や住民との協議などを求める内容）を提出し、国交省交渉を行いました。各区の住民団体にも案内があり、「江戸川区民の会」から太田が参加しました。

国交省からは 2 名が出席、柿沼課長補佐が対応。やり取りの中で、下記の諸点が明らかになりました。

航空機の部品脱落のデータは 2009 年度から国内航空会社に報告を義務付け、公表している。2009 年度からの積み上げで、報告された脱落件数は 437 件。外国の航空会社についてのデータはない。

新ルート航行の時間帯などについて、文章

で約束するつもりはない = 今後、拡大しないという保証はないということ。

2020 年以降の検討はしていない。（「中間とりまとめ」では新滑走路などについて検討しているのに・・・）

説明会はまずオープン型で関係自治体とも相談の上、実施する。多くの区が教室型の説明会を要請しているのに、これについては実施するとは回答せず、今後考えていくにとどまっています。

（太田美音）

羽田増便問題関連

区議会、他区住民団体等の動き

- ・ 12/14（水）大田区議員有志主催「羽田空港の飛行ルート変更問題」勉強会 18 時半 ~ 大田区役所消費者生活センターにて
- ・ 12/21（水）江戸川区議会生活振興環境委員会（陳情審議） 10 時 ~

東京連絡会主催

集会と国交省前宣伝行動

「羽田増便による都心低空飛行計画に反対する東京連絡会」主催で、下記の集会と宣伝行動を行います。是非、多くの方の参加をお願いします。

< 集会 >

日時：2016 年 12 月 15 日（木）14：00 ~ 15：00

（参加者は 13 時 30 分 参議院議員会館 1 階 集合）

場所：参議院議員会館内会議室

内容：住民団体からの運動報告・提起・決意、国会議員、都議、区議からの激励・挨拶など

< 宣伝行動 >

日時：2016 年 12 月 15 日（木）15：30 ~

場所：国土交通省横の歩道



国交省「環境影響等に配慮した方策」とは？

国交省は7月29日、「環境影響等に配慮した方策」を公表しました。“羽田空港機能強化方策の具体化に向け、説明会で頂いたご意見等も踏まえ、環境影響等に配慮した方策を策定”としていますが、具体的にみると、私たちの危惧や不安・疑問に答えるものとはなっていません。(下表参照)

詳細は国交省ホームページをご覧ください。

また、来年1月から、関係各区で順次、国交省による説明会を実施すると発表しています。江戸川区がトップ、いずれもオープンハウス型の展示説明会です。多くの区で、教室型のコミュニティ・ミーティングも要請しています。江戸川区も要請していると議会で答弁しています。

国交省 住民説明会

日時：2017年1月11日(水)
14:00~19:00

場所：タワーホール船堀
展示ホール2

周りの方にもお知らせください。
1人でも多く参加しましょう。

<環境影響等に配慮した方策(骨子)は国交省「羽田のこれからニュースレター第6号」から抜粋>

	環境影響等に配慮した方策(骨子)	効果は？
環境対策	低騒音機の導入を促進(国際線着陸料について、航空機の重量に加え騒音の要素も組み合わせた料金体系を導入する)	現在発着の低騒音機の比率が不明、低騒音機しか許可しないというわけではない。また、低騒音機であっても、低空飛行での騒音は大きい
	空港に近く新たな経路付近に位置する学校・病院等の防音工事(「公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法律」に基づく)	対策織り込み後の想定では、極めて限定された地域が対象。防音対策対象の民間住宅はないという見込み。騒音防止法の基準自体が低すぎるのでは？
運用の工夫	南風時の新到着経路に係る進入開始高度の引き上げ	軽減される地域はあるが、最も騒音が大きい地域はそのまま
	南風時の新たな滑走路運用に係る使用便数の調整によるB滑走路からの出発機の便数の削減・航路修正	出発航路修正により、陸上部分が減るが、川崎のコンビナート上空飛行は外れていない。また、削減数も1時間24機を20機にする程度。将来的に増やさないという保証もない
	北風時の新出発経路に係る朝の運用時間の後ろ倒し(6:00~10:30 7:00~11:30)	早朝を避けるのは良いが、後ろ倒しで、飛来機数は増える
	現行経路について、北風時の現行到着経路に係る富津沖海上ルートの変更の活用を図るなど、騒音影響に配慮する技術の進歩に応じた騒音影響の軽減に取り組む	海上ルートの活用が最善ということは、国交省も承知ということ。新陸上ルートは中止してほしい 具体性に欠ける。「方策」と言えるのか？
安全対策	外国航空機を含め、安全監督等に引き続き万全を尽くすとともに、航空会社に対して安全対策の徹底を要請	現行と変わらないのでは？
	点検・整備の徹底を指導するなど、引き続き、落下物の未然防止に万全を尽くすとともに、駐機中の航空機に対し国が航空機をチェックする新たな仕組みを構築するなど、未然防止策を強化	今までも万全を尽くしていたのでは？ これまでの国交省交渉で、具体的には、「国交省の職員がチェックする」と回答している。資格もない職員が、研修を受けたくらいで、チェックできるとは思えない。